



国会議員と若者の世代間対話
及び
若者ネットワーク準備会合
報告書

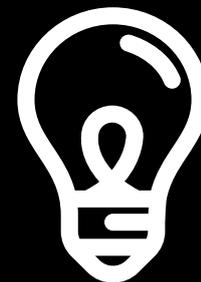
主催



後援



背景



アジア太平洋地域の低・中所得国に住む 10～24 歳の若者は約 10 億人で、世界の同年層の 6 割を占めている。若者の生活は大幅に改善されたが、特に教育機会、雇用機会、サービスの利用機会、広い意味での参加機会の大きな不平等・不公平は依然として存在している。アジア太平洋地域は、世界有数に高い若年労働力比率を誇っているにも関わらず、劣悪な労働条件とインフォーマル雇用が特徴となっており、それがメンタルヘルス問題の事例の増加につながっている。また、紛争下や緊急事態下にある若者や、生き残りやより良い生活機会を求めて故郷を離れた若者は、生命を脅かされる危険な目に遭っている。

思春期の若者に対する保健医療サービスの基準の定義には進展が見られるものの、今でもかなりの障壁があり、同年層の若者はユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）から取り残されている場合が多い。また、何らかの健康保険に加入している思春期の若者は 20%に過ぎず、そのため、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス・サービス（SRHS）を含む保健医療サービスに対する若者のニーズも満たされていない場合が多い。こうした課題や不平等は、コロナ禍の影響によってさらに悪化している。コミュニケーション、仕事、教育の方法がオンラインに移行した中で、インターネットの利用が制限されている、あるいは全く利用できない人たちはますます不利になっており、失業、質の高い教育や必要なサービスを受ける機会、情報を得る機会の欠如といった問題が悪化しているとともに、若者がネットいじめやネット上でのセクシュアル・ハラスメントや搾取の被害に遭うようになっている。

こうしたコロナ禍の影響が最も深刻だったのは、すでに困難な状況にある若者たちであった。若い移住者、貧しい都市部に住む若者、家のない若者、障害を持つ若者、女兒と若い女性、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クィア／クエスチョニング、インターセックス（LGBTQI）の若者、HIV 感染者は、搾取や暴力を受けるリスク、メンタルヘルスの問題を抱えるリスクが他よりも高く、保健医療のサービスや保護もすでに受けにくくなっている。こうした若者の多様な課題やニーズに対応するには、若者中心の多方面からの包括的取り組みが必要である。平和、安全、正義、気候変動への対応力、そして 2030 年アジェンダの達成には、若者とパートナーシップを組み、若者に有意義に参加してもらうことが必要である。

すでに若者は自分たちのコミュニティの強靱化に大きく貢献し、革新的なアプローチを導入し、社会の進歩を鼓舞し、政治の変化を促している。

コロナ対応を含め、いかなる状況においても、若者の有意義な参加を確保する必要があり、若者は、コロナ対応のあらゆる段階においてパートナーとして扱われるべきである。若者が、コンサルテーションや知識の共有を通じて体系的に参加し、予算配分を含むあらゆるレベルの意思決定に関与し、対応策の実施に従事してできるようにすることが重要である。

しかし、有意義な参加の実現は、アジア太平洋地域全体では限られている。有意義な参加には、意識的な努力と十分な時間や資源の割り当てが必要である。若者がリーダーシップを発揮し、活動を行い、自らの権利を擁護し、意思決定者に責任を持たせ、関連する仕組みを確立できるようにするには、若者が能力を育成できる機会が必要である。また、それと同時に、政府などのステークホルダーに対して、若者の有意義な参加について意識付けを行う努力も必要である。

背景



若者の参加推進の ための世代間対話



国会議員は、若者と政府機関の双方に役立つ、若者の有意義な参加の実現に不可欠な参加型構造と能力育成機会を整備する最適な立場にある。アジア太平洋地域には世界的に見ても最も酷い不平等が存在している国々があり、さらに最も多様性に富んでいることから、国会議員は、国民、特に社会的弱者や社会的に疎外された人々が直面するニーズや課題への対応を行う上で、いっそう重要な役割を担っている。

APDA は、国際人口開発会議 (ICPD) 行動計画、及びナイロビ・サミットのコミットメントの推進に向けた政治的公約と行動の強化を目指し、UNFPA APRO の支援を受け、アジア太平洋地域の国会議員や人口と開発に関する国内委員会 (NC) と連携している。国会議員の顔ぶれは常に変化しているため、APDA は UNFPA APRO とともに、情報や知識、スキル、ネットワーク、学びの機会を日常的に提供し、国会議員の継続的な専門能力構築ニーズに応えなければならない。そのための取り組みには、人口とセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス／ライツ (SRHR) 問題に対する開発援助の強化や国家予算の増額をより効果的に支えるスキルを得て、ツールや方法論を適用すること、そして SRHR を尊重し、保護するための法律や政策を実施することなどがある。また、特に ICPD アジェンダやナイロビ・コミットメントに関して、若者の参加を改善する最善の方法を理解する必要もある。

今回の世代間対話の目的は、若者の有意義な参加に関する共通認識や、若者の参加の優れた事例を共有し、それぞれの国での行動計画に反映させることにあった。それと同時に、今回の対話は、各国の国会議員、ユース・アドボケイト (若者の意見表明支援者)、市民社会組織 (CSO) 間のパートナーシップを形成し、行動計画に関するフォローアップを促進することを目的としたものであった。



目的

世代間対話と若者ネットワーク準備会合の主な目的は以下の通り。

- ・若者の有意義な参加に向けて共通認識を持つこと
- ・一般的な状況、またはコロナ禍における、若者の有意義な参加の好例／方法を共有すること
- ・若者の参加を阻害する課題を特定し、その課題を解消するためのアイデアについて話し合うこと
- ・各国の国会議員、CSO、若者パートナーとのパートナーシップを形成・促進し、若者の有意義な参加の方法を模索すること

若者ネットワーク準備会合
には
17カ国以上から
合計
110人の
若者が参加

参加者の大半は 18 歳から 25 歳。
18 歳未満は 10.8%。
参加者の 55%が女性、41%が男性、
残りはトランスジェンダー
または無回答を希望。

2021年7月5日

若者ネットワーク 準備会合

「若者と若者の有意義な参加」をテーマとする、アジア国会議員と若者の世代間対話のための若者ネットワーク準備会合は、次の4つのセッションで実施された。1) 若者の有意義な参加とその方法、2) 若者の有意義な参加の実践、3) 若者の有意義な参加におけるギャップとその解消法、4) 政策立案者と効果的にコミュニケーションする方法。

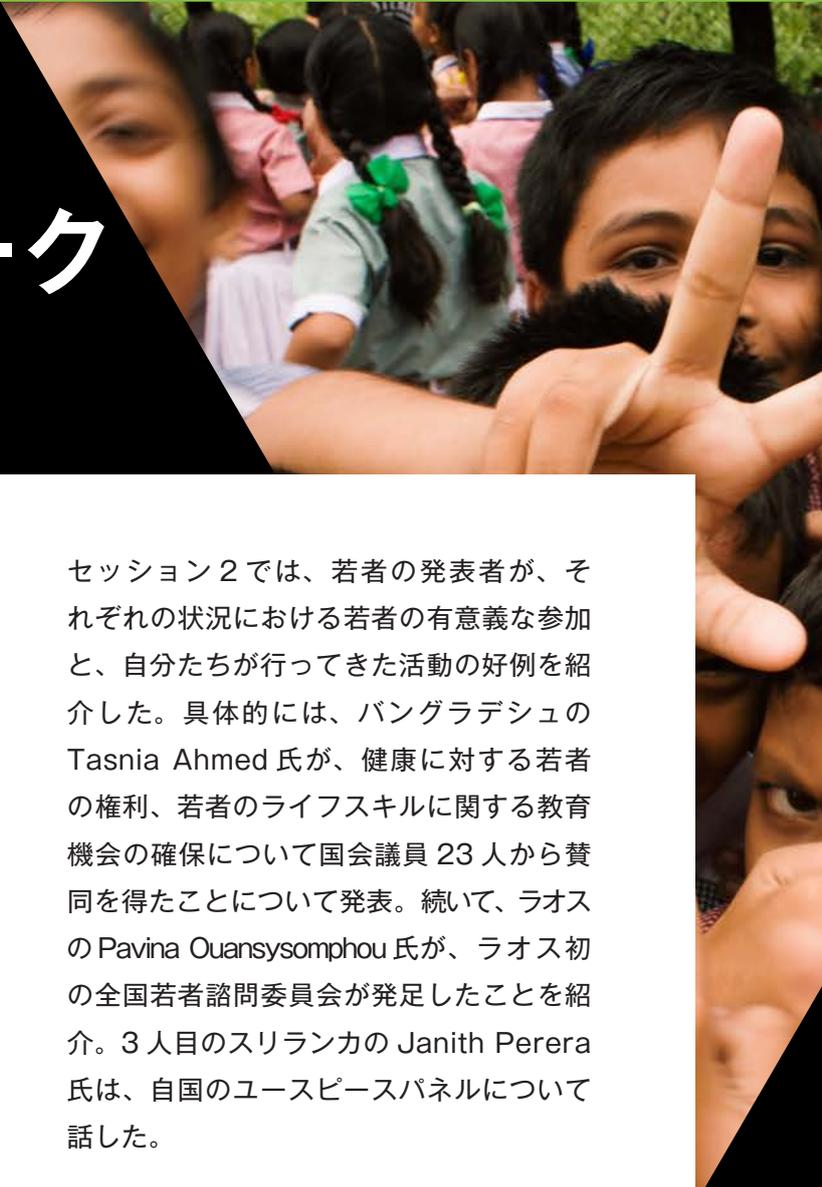
最初に、楠本修 APDA 常務理事が開会の挨拶を行い、その中で、若者による若者のための決定を行うために必要となる条件を示し、その議論の継続で若者が果たす役割について述べた。

セッション1「アジア太平洋地域における若者の有意義な参加とその方法」では、若者の有意義な参加の概念と、その様々な原則を紹介した。参加者は、チャットで考察を共有した。

また、Y-PEER アジア太平洋センターの Sangeet Kayastha 氏が、参加者からの意見や UNFPA アジア太平洋地域オフィサーの調査をもとに、若者の参加の様々な仕組みについて概要を説明した。

セッション2では、若者の発表者が、それぞれの状況における若者の有意義な参加と、自分たちが行ってきた活動の好例を紹介した。具体的には、バングラデシュの Tasnia Ahmed 氏が、健康に対する若者の権利、若者のライフスキルに関する教育機会の確保について国会議員23人から賛同を得たことについて発表。続いて、ラオスの Pavina Ouansysomphou 氏が、ラオス初の全国若者諮問委員会が発足したことを紹介。3人目のスリランカの Janith Perera 氏は、自国のユースピースパネルについて話した。

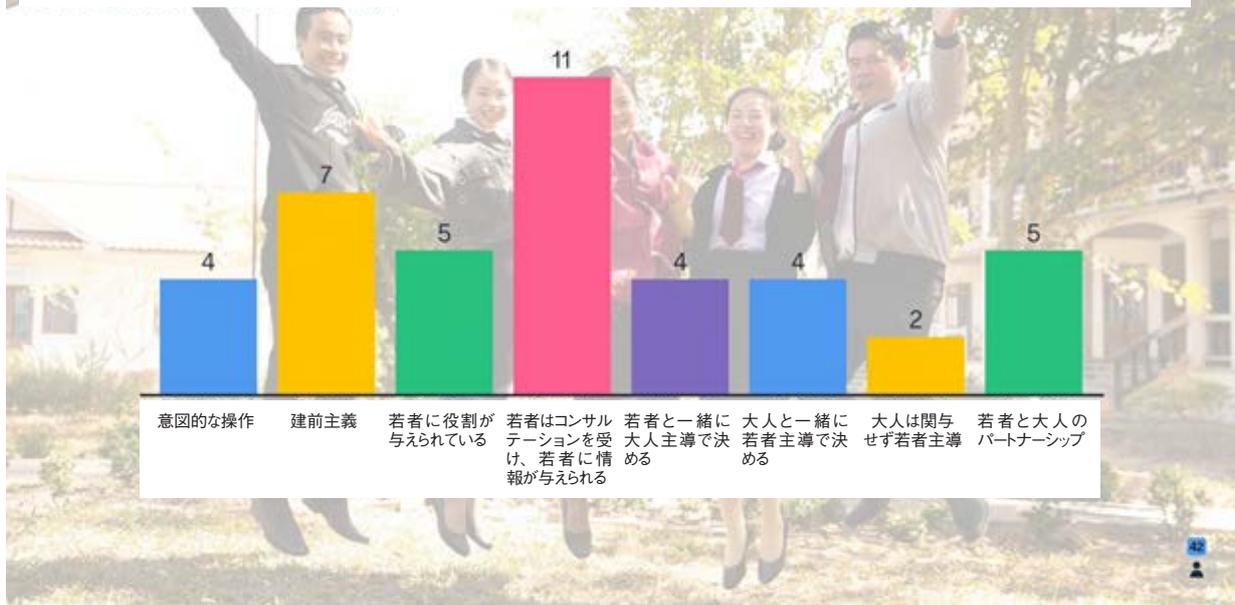
こうした若者による事例紹介で、続く意見交換が活発化し、参加者に「地域社会をより良く変えていく主体になる」という活力を生み出した。



1. あなたにとって若者の有意義な参加とはどういうことですか？
(1～2語で表現してください)



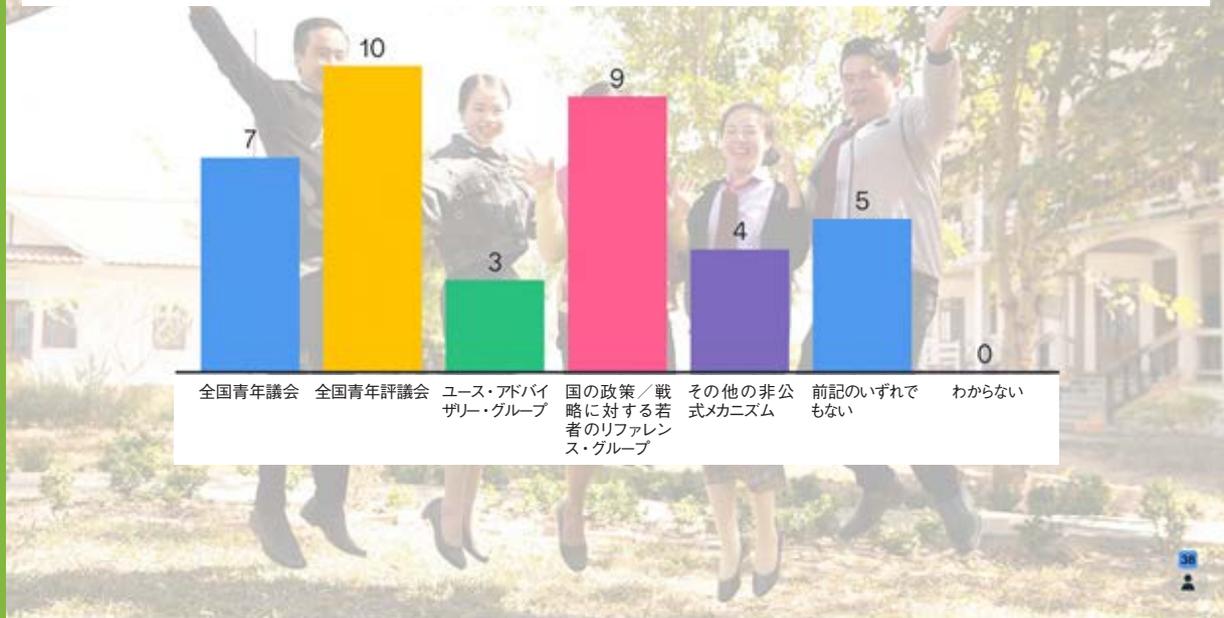
2. あなたの国での「若者の参加」の経験を最も適切に表現してください。



MENTI-METER クイズ

セッション1では、リアルタイムのフィードバックを可能とするソフトウェア「メンティメーター (Mentimeter)」を利用し、参加者が質問に回答した。「若者の有意義な参加とは何か」、「若者の参加に関し、自分の国でどのような体験をしているのか」といった質問に回答した。

3. あなたの国では、政府のどのような若者向けのプラットフォームが最もよく機能していますか？



「これらの事例からどのような教訓が得られますか？成功のカギは何ですか？」

回答：

- 多様性と包摂性
- 若者の参加
- 交差する問題に取り組む必要性
- 若者のリーダーシップ

MENTI- METER クイズ

セッション1では、参加者が「若者の有意義な参加とは何か」、「若者の参加に関し自分の国でどのような体験をしているのか」という質問に回答した。

上のグラフはその回答をまとめたものである。

2021年7月5日

若者ネットワーク 準備会合

若者による意欲的な事例発表に続き、セッション3では、参加者がグループに分かれて、若者の参加を妨げている障害やその解消に向けたアイデアについて意見交換を行った。単一国グループは8会場、混合国グループは1会場だった。まず全体会議では、参加者から事前に提出された意見に基づいて、若者の有意義な参加に存在するギャップの説明がなされ、各グループでの議論に移った。

グループ内で議論された問題は以下の通り。

- ・どのような障害があるのか？
- ・その障害を解消するにはどうしたらよいか？
- ・グループとして3つの提言をまとめ、カギとなる提言を選ぶ。

このセッションで出された主な提言は以下の通り。

1. 実現を可能にする政治的枠組み：
 - ・政府と若者の連携と対話の推進
 - ・青年議会の設立
 - ・若者の政治的エンパワーメントの強化
 - ・中央・地方レベルの若者主導の委員会を通じた若者の政治への参加
 - ・若者に影響を与える潜在的な問題の解決に向けた法改正

2. ニーズに応じた改革：

- ・若者の新たな課題、問題、願望に応じて、若者政策の見直しや修正を行う。
- ・若者の参加に関する学校教育の推進。
- ・若者が将来の就職や、社会の中でより大きな社会的・政治的役割を担う場合に備えるためのスキル習得を学校のカリキュラムに盛り込む。
- ・若者に配慮した経済支援政策と法体系の確立を推進する。
- ・デジタル方式などを介し、あらゆる形の若者の声を受け入れる。

3. 包摂性：

- ・意思決定に若者が参加できるようにする。
- ・社会的に疎外された若者のグループ（LGBTQ、障害者等）も対象とする。
- ・若者のために機能するプラットフォームを強化または整備する。
- ・若者の権利に関する啓発活動を行い、アクションプロジェクトへの若者の参加を実現する。

各グループは全体会議に戻り、グループ討論会場での議論について報告した。

2021年7月5日

若者ネットワーク 準備会合

ほとんどの若者は、「実現を可能にする政治的枠組み」の提言が最も優先度が高いことに賛同した。このカテゴリーでは、体系的な青年議会の設立や、政治的意思決定への若者の参加などが、主な提言として挙げられた。

調査では、若者の参加に関する学校教育の推進といった「ニーズに応じた改革」や、若者の参加において社会的に疎外されたグループも対象とするという提言が、最優先の提言に僅差で続いている。

若者ネットワーク準備会合の最終セッションでは、効果的なコミュニケーションのスキルや戦略を学ぶことに焦点が当てられた。

UNFPAのRandima Jayasinghe氏がプレゼンテーションを行い、政策立案者と効果的にコミュニケーションするために不可欠なスキルや、そのための効果的戦略について紹介した。



2021年7月8日

アジア国会議員と 若者の世代間対話

7月8日、「若者の参加推進のためのアジア国会議員と若者の世代間対話」が開催され、140人以上が参加した。

今回の世代間対話についてはAPDAが詳細な報告書を作成。同報告書は資料フォルダ（本書末尾にリンクあり）で公開されている。

若者の有意義な参加に関する世代間対話

パネル発表者
2021年7月8日

司会

 Ms. Ayeshwini Lama, Y-PEER アジア 太平洋センター幹部	 Hon. Ramina Khurshid Alam, パキスタン国会議員	 Hon. Sarah Jane I. Elaga, フィリピン国会議員	 Hon. Hector Appuhamy, スリランカ国会議員
 Ms. Siva Anggita, ユースTBムーブメント、パート ナーシップ担当ディレクター	 Mr. Fera Sherpa, ネパール Y-PEER 理事、 ICPD25 Youth Group、 ネパール	 Mr. Ram Dulip, メンタルヘルス・キャンペーン [Me for Myself] メンバー コモンウェルスユース 2021 候補者 スリランカ	

世代間対話に参加した国会議員と
若者によるパネルディスカッション

モデレーターとスリランカの
国会議員



世代間の対話

若者の声

「国の責務履行者や政治指導者に行動するよう要求する若者の声に耳を傾けてもらうには、若者と国会議員が直接意見を交換することが実に重要です。今回の世代間対話は、若者たちが自由かつ安全に、自分たちの要求や、どうすれば国づくりに有意義に関わることができるかについて発言できる大きく開かれた場を設ける道を開いてくれました。おかげで、私たちの声を責務履行者や政治指導者に確実に届けることができました。自分たちの考えやアイデアを指導者と共有したいと思っている若者は大勢いますが、残念ながらそのためのプラットフォームがないのです。」

- Alex Bernal (フィリピン)

「今回の世代間対話では、対話の2つの側面で何が起きているのかについて、異なる視点から見ることができました。変化の実現が遅れるのは、権力者が消極的だからというわけではなく、変化を進める正しい方法が明確でないからということもあると思います。だからこそ、若者との有意義な関わりは重要です。若者政策の取り組みについて現在の風潮に変化をもたらし、地域社会全体の利益をもたらすことに熱心であることは、権力者も若者と同じであることが分かってよかったです。」

- Karma Sangay Phuntsho (ブータン)

若者の声

若者の声

「若者は新しいアイデア、社会の発展、政治変革に大きく貢献していますが、直接的な形でそのプロセスに関与、参加することはほとんどできず、機会も与えられていないのが現状です。コロナ禍の時期を通じて、誰にとってもストレスの多い、厳しい状況が深刻化しています。そうした中であっても、私を含め 100 人以上の思春期の若者が、国会議員、CSO、国連代表と一堂に会することができた今回の対話に感謝しています。国会議員、ステークホルダー、若者たちが参加した今回の対話では、大人と若者の双方が、問題、機会、解決策を本当に把握することができました。」

- Situ Shrestha (ネパール)

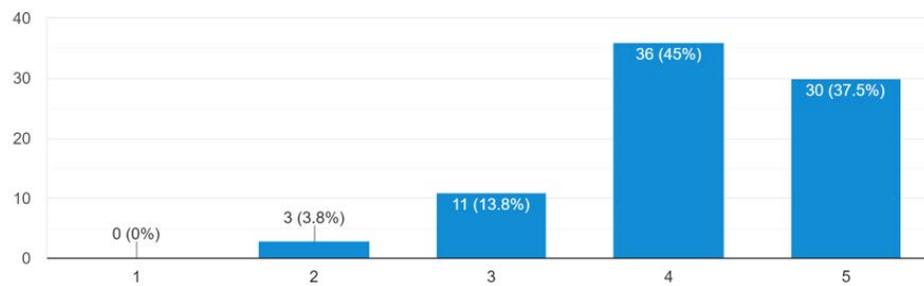
参加者アンケート結果

世代間対話と若者ネットワーク準備会合の両方の参加者にアンケートを行い、83人から回答が得られた。以下、アンケート結果の一部を紹介する。

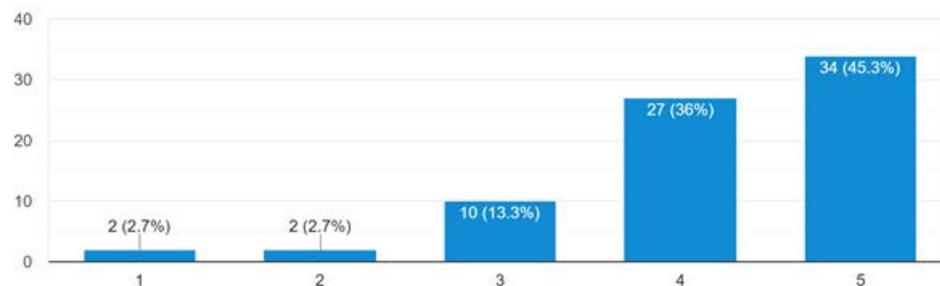
1. 若者ネットワーク準備会合、世代間対話ともに、参加者の大半が、各セッションは期待通りと感じていた。

(以下はアンケート結果。5が最も満足度が高いことを表している。)

1. 準備会合は全体的な目的及びあなたの期待に沿うものでしたか？
回答数：80件



1. 世代間対話は全体的な目的及びあなたの期待に沿うものでしたか？
回答数：75件



参加者アンケート結果

世代間対話と若者ネットワーク準備会合の両方の参加者にアンケートを行い、83人から回答が得られた。以下、アンケート結果の一部を紹介する。

2. 参加者の多くは、グループ討議に、発言やチャットで十分参加できたと感じていた。その一方で、若者ネットワーク準備会合で10%、世代間対話で17%が「全く参加できなかった」と回答していた。その理由は、接続の問題や時間的制約が原因だった。また、大多数が「グループの人数が多すぎる」と感じていた。
3. 「国レベルではどのようなフォローアップ活動に関心があるか」という質問に対しては、主に以下の回答が集まった。
 - a) Y-PEERのような若者主導／若者中心の組織が主催する活動への参加。
 - b) 自国の国会議員その他のユース・アドボケイトとのフォローアップ会議。
4. 「アジア太平洋地域レベルではどのようなフォローアップ活動に関心があるか」という質問に対しては、主に以下の回答が集まった。
 - a) 若者の有意義な参加の優良事例を他国のユース・アドボケイトと交換する。
 - b) 他国の国会議員やユース・アドボケイトとフォローアップ対話を行う。
5. ユース・アドボケイトとしてのスキル向上に必要なサポートへの提案。
 - 効果的なコミュニケーションと人前で話す能力を育成する研修。
 - 資金調達・パートナーシップ構築研修。
 - 資金援助／スモールグラント（少額助成金）。
 - アイデアや優良事例の交流のためのプラットフォーム。

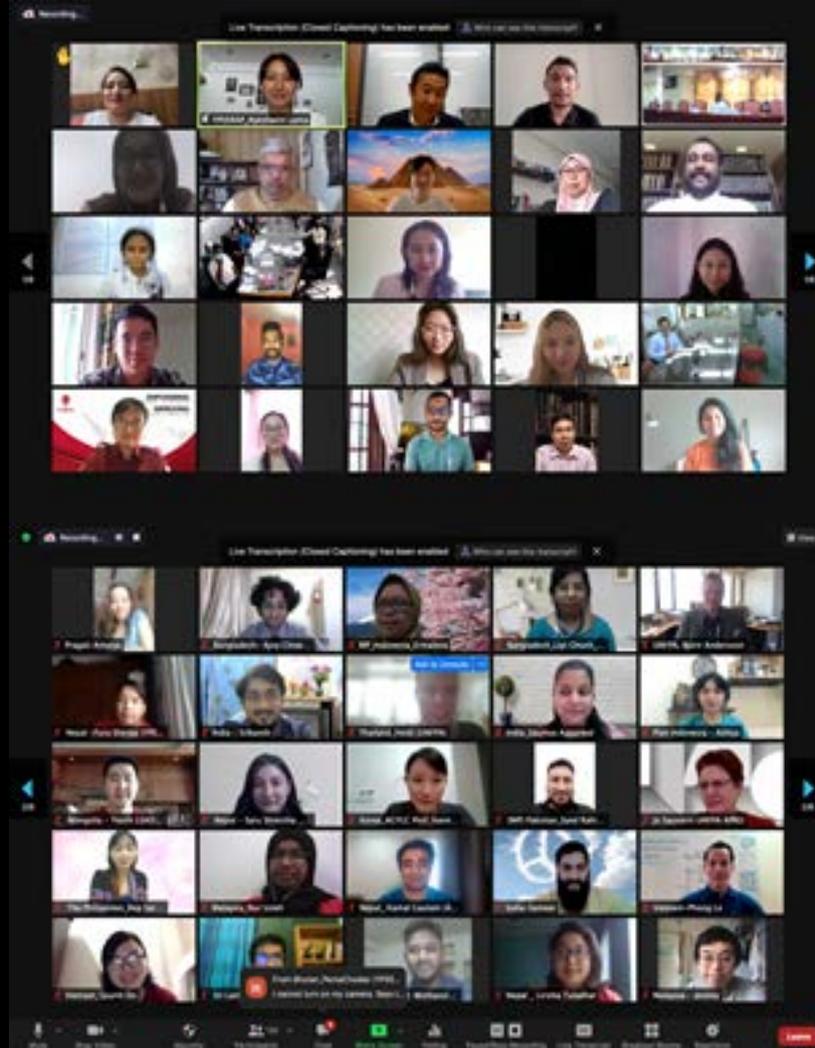
結論・資料

今回の世代間対話と若者ネットワーク準備会合には、アジア太平洋地域 36 カ国以上から各国の国会議員も含めて合わせて 140 人以上が参加した。

若者の有意義な参加に関する双方向セッションでは、若者と大人のパートナーシップの将来について協議を進めることができたとともに、若者との有意義なパートナーシップの重要性をさらに強調することができた。準備会合と世代間対話で使用された資料や、作成された資料は全て、以下の google フォルダーで公開されている。

リソースフォルダー（資料フォルダー）

内容：セッション記録、プレゼンテーション、ジャムボード上で行われたグループ討論、メンティメーターの集計結果、課題、優良事例、及び仕組みのまとめ、セーフガードガイドライン等。

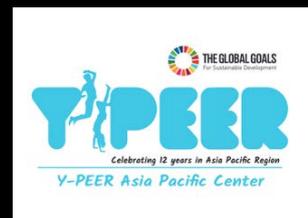


サブグループのファシリテーターの皆様に感謝申し上げます。

Samir Kumar Paul, Lipi Ghosh, Iris Pi,
Kuenzang Dema Norbu, Pema Choden Dorji,
Karma Sangay Phuntsho, Situ Shrestha,
Fura Gelzen Sherpa, Maria Iqbal Shah,
Maryam Ghulami, Rosemary Pawih, Ram Dulip,
Alexander Bernal

世代間対話及び若者ネットワーク準備会合資料

<https://drive.google.com/drive/folders/1VkEnwmn7Gk8NKfTC7MSj3M9LixBp9lCm?usp=sharing>



今後の活動については、以下の Y-PEER アジア太平洋センターの公式ウェブサイトをご覧ください。

www.ypeerap.org

作成：

Ayeshwini Lama & Sangeet Kayastha (Y-PEER アジア太平洋センター)
Maki Akiyama (UNFPA アジア太平洋地域事務所)